

第18回 日・韓・中ジュニア交流競技会

報告書



日 時 2010年8月23日～29日
場 所 中国河南省・鄭州市



団 長

大森 徹

全国高体連テニス部副部長

『第18回日・中・韓ジュニア交流競技会』を終えて

8月22日から29日の日程で、中国河南省鄭州市において『第18回日・中・韓ジュニア交流競技会』が開催された。鄭州市は温度・湿度ともに日本と比べてやや低めで、すごしやすい環境であった。結果は女子が優勝、男子は3位だったが、交流会のねらい通り3ヶ国の選手同士親睦を深めることができた。また中国の役員の方々もこれまで以上に友好的であった。

出発前には例年通り強化合宿（今年は大阪で実施）を行ったが、選手同士それぞれ打ちとけ合い、チーム意識も高める事が出来た。中国に入ってからもその姿勢は変わらず、互いに協力し、いいムードで大会に臨むことができたように思う。

初戦の韓国との試合では、女子はもう少し苦労するかなと思っていたが、心配をよそに強い日本を見せつけてくれたし、男子も負けたとはいえ、選手それぞれが工夫を凝らし持ち味を充分発揮することができたと思う。その日のミーティングでは、「勝つためには何ができるか」、「自分の長所を引き出すようなゲーム展開に持ち込むためには」など、選手からの発言や監督から助言があって、その意識は最後の中国戦まで保つことができていた。

大会の運営については、当初「河南省テニスセンター外6面のうち4面を使って行う。隣接する室内コートはソフトテニスが使用する。」という予定であった。過去においても1面展開で延々とやらされたこともあって心配していた。前日の練習日から初日にかけて雨が降っていたことが幸いし、早々とソフトテニスの会場がほかに変更されたことから、私たちの願っている方向へ傾いてきた。初日こそ雨の影響で8ゲームマッチになったが、2日目からは8面全部を使ってシングルスは3セットマッチ、ダブルスはファイナルセットをスーパータイブレークで行うことになった。3国の役員・監督会議では、ルールや進行に関して確認をするが、意見をしっかり主張したほうがよい。

今回参加してくれた男女8名の選手はよく頑張ってくれた。彼らは、「高体連のインターハイや選抜大会で活躍するトップクラスの選手が、中国や韓国の同年代の選手と戦っても負けないだけの実力がある。」ということを証明してくれた。次に続く人たちも是非頑張って欲しい。

■ 参加者

団長 大森 徹 全国高体連テニス部副部長

男子監督	新居 弘行	全国高体連テニス部 常任委員	女子監督	石原 弘也	全国高体連テニス部 常任委員
選手	竹内 遥丞 古田 陸人 西田 昇吾 池川 浩史	秀明八千代高校 3年 名古屋高校 3年 柳川高校 3年 相生学院高校 2年	選手	菅村恵里香 山本みどり 美濃越 舞 江口 実沙	仁愛女子高校 3年 園田学園高校 3年 秀明八千代高校 3年 富士見丘高校 3年

■ 試合結果

日本 1-4 韓国	日本 4-1 韓国
古田 陸人 6-8 Kim Jaeger Hwan ○	○ 山本みどり 8-1 Park Sung Ah
○ 西田 昇吾 8-3 Jung Kisu	○ 江口 実沙 8-2 Yoo Jin
竹内 遥丞 6-8 Nam Ji Sung ○	美濃越 舞 5-8 You Song Yee ○
池川 浩史 3-8 Kim Yeong Don ○	○ 菅村恵里香 8-1 Kim Jaeger Yeon
西田・竹内 3-8 Nam Ji Sung, Kim Yeong Don ○	○ 山本・江口 8-4 Yoo Jin
	You Song Yee

日本 5-0 韓国 (地元)

- 古田 陸人 63, 61 Wu Yukun
- 西田 昇吾 60, 60 Wang Le
- 池川 浩史 63, 61 Song Linqi
- 竹内 遥丞 61, 60 Nu Chenlong
- 古田・池川 64, 64 Wu Yukun
Song Linqi

日本 5-0 韓国 (地元)

- 美濃越 舞 75, 61 Zhang Shasha
- 菅村恵里香 60, 60 Xu Songya
- 江口 実沙 64, 62 Xin Yuan
- 山本みどり 64, 62 Zhang Shasha
- 菅村・美濃越 46, 62, 10-4 Xin Yuan
Zhang Chulei

日本 2-3 中国

- 古田 陸人 76(4), 62 Feng he
- 西田 昇吾 36, 36 Cai Zhao ○
- 竹内 遥丞 63, 63 Li Yu Cheng
- 池川 浩史 16, 46 Cao Guanyu ○
- 古田・西田 62, 16, 6-10 Cai Zhao
Feng he ○

日本 3-2 中国

- 江口 実沙 63, 62 Zhu Lin
- 山本みどり 16, 36 Yang Zhaoxuan ○
- 美濃越 舞 46, 61, 64 Dong Xiaorong
- 菅村恵里香 64, 26, 75 Zhu Aiwen
江口・山本 36, 16 Zhu Lin
Yang Zhaoxuan ○



男子監督

新居 弘行

全国高体連テニス部常任委員

昨年に引き続き、男子監督として第18回日・中・韓ジュニア交流競技会に参加させていただきました。8月20日、大阪学院大学テニスコートをお借りしての2泊3日の事前強化合宿からチームはスタートしました。キャプテンを竹内に決定し、「日本の高校生代表という自覚と誇りを持って行動しよう」と確認しました。メンバー同士もすぐに打ち解け、合宿の目的である、”チームの和を作り競技会参加への目的意識を高める”ことができました。ご協力いただいた株式会社ムーブ、近畿大学、神戸親和女子大学テニス部の皆さんに心よりお礼申し上げます。

中国へ渡り、11競技が競技別のテーブルにつき行われた監督会議に出席しました。当初 ①明日(25日)は雨なので室内コートでシングルス2ダブルス1の3ポイントで行う。②晴れの場合屋外コートは6面あるが2面を練習で使うため、1対戦(例えば男子日本対中国)は1面進行で行う。とレフエリーから発表されましたが ①については交流戦だから試合数は多い方がよい。3セットマッチではなく6ゲームでもいいから4人全員にシングルスをさせたい。②については1面で3セット5試合(シングルス4ダブルス1)は試合時間が長引く。練習コートはいらないから2対戦を3面で行えないか。と提案し、韓国、中国チームにも同意してもらいました。①は8ゲームで落ち着き ②は結果的に屋内コートも加え全8面、各対戦2面展開となりました。

試合結果は韓国、中国に勝利できず、3位に終わりました。初戦の韓国戦は緊張から固さもあったので、2日目からは相手の状態も見ながら攻めどころを考えたプレーを意識して臨みました。選手たちは日本代表という強い意識を持ち、全力で戦ったのですがあと一歩及びませんでした。負けた試合はサービスなど、パワーで押し切られたポイントによる差が大きかったように感じました。

チームはキャプテン竹内を中心に男女とも明るくて仲が良く、挨拶や5分前行動など生活の中にはじめがありました。最終日には韓国選手と宿舎で歓談しユニークな交換するなど、言葉の多少の壁をテニスという共通言語で乗り越え、自分たちの世界を広げていく姿を頼もしく感じました。

中国の様々な文化に触れることもできました。韓国の高校は夕方6時まで授業、8時まで補習、10時まで自主学習があると去年の通訳(韓国)が言っていたので、同じ質問を通訳の周さんになると、中国の一般の高校生は夜の9時まで学校があると答えてくれました。目を丸くする私に対し「日本人はあまり勉強しないんですね」と笑顔でとどめを刺され、…帰国したら頑張ろうと思いました。

さて、最終日、少林寺での修行僧たちの演舞を前に「守・破・離」という言葉を思い出しました。これは物事を習得する段階を三つに分けた言葉で、「守」師匠の教えを忠実に守って基本を身につけ、「破」基本が身についた後それを破って応用を考え、「離」自分独自の道を確立させていく段階のこと、18世紀の茶人 川上不白の『不白筆記』にある言葉です。

参加した8名の選手達は「破」の段階でしょうか。「離」の入り口あたりでしょうか。彼らには今回の経験と絆を胸に、力強く「離」の道を歩んで行って欲しいと思います。

最後に、お世話になったすべての方々に感謝申し上げ、報告を終わりります。



女子監督

石原 弘也 全国高体連テニス部常任委員

中国鄭州で行われた第18回日・中・韓ジュニア交流会競技会に、女子監督として参加しました。自分自身も大いに勉強になり、また歴史ある中国で日本と異なる文化に触れ驚きの1週間でもありました。

中国へ遠征するに当たり大阪学院大学で2泊3日の事前合宿を実施しました。女子チームのキャプテンを菅村に決め、また昨年の反省をもとにチームとして行動するのに必要な時間の厳守・あいさつなど守るべき規則を確認し練習をスタートさせました。

互いがインターハイで戦ったライバルでありまた個性豊かなメンバーであるためチームとして融合するのか、また連戦続きで疲れが溜まつてないか心配であり不安でしたが、練習がスタートすると明るくとのびのびとプレーし、練習後にも互いにボールを出し合いながら納得いくまで練習する姿が見られ、チームとしての手応えを感じました。またダブルスをどう組むのかが課題でしたが、どの組合わせにもうまく対応してくれました。2日間、神戸親和女子大学のコーチや選手がまた大分県から選抜の個人戦等で活躍した円本選手（福德学院）も精力的に指導やヒッティングをしてくれ、レベルアップに大いに役立ちました。紙面を借りて改めてお礼申しあげます。

22日には他競技の日本選手団と合流し、JAPANのロゴの入ったユニフォームを手渡され高体連11万人の代表であり日本の代表だという意識を強くしました。

中国到着後は、1日大会会場で練習し本番を迎えるました。天候も不順で日本の大会のように時間通りに試合が入らず、試合方法もコートもころろかわる中、気持ちを落ち着かせて試合に臨みました。

1日目（25日）は韓国戦。天候の関係で室内から急遽シングルス4試合が同時にに入る展開になりました。どの試合も接戦を覚悟してましたが堅実なテニスが信条の菅村が一番早くに勝ち名乗りを上げ、チームに勢いを呼びこみシングルス3勝1敗としました。また山本・江口の息のあったコンビネーションでダブルスにも勝利し韓国に4勝1敗としました。

2日目（26日）は地元鄭州戦。鄭州チームは、ストロークに破壊力があり気が抜けませんでしたが、丁寧な試合運びと思い切ったネットプレーなどで5戦全勝で勝利しました。

3日目（27日）は中国戦。パワフルなショットの持ち味の中国選手にどう試合を組み立て、またショットの判断を早くし最後まで粘り強くプレーするかがポイントで、実際試合でも大接戦になりました。フォアハンドの強打や攻撃テニスが持ち味の山本選手、強烈なバックハンドを中心に行方の江口選手、フラット系のボールで攻め続ける美濃越選手、丁寧な試合運びと勝負強さをもちあわせた菅村選手が、粘り強く自分のテニスを展開し、ファイナルセット2試合の大接戦をものにシングルスで3勝1敗、ダブルスで破れはしたものの3勝2敗で勝利し優勝を決めました。

大会を通して、選手の負けたくない！という最後まであきらめない強い意志を感じるとともに、一戦一戦成長する選手の姿を見て逞しく思いました。まだまだ技術的に未熟な部分も多くありますが、一つ先を見越したテニスを展開することでこれまで以上に大きく成長してくれることを願っています。

また、日本選手団は男女とも仲が良くテニスに試合に真摯に取り組んでくれたことも非常に素晴らしい点でした。

最後になりましたが、お世話になった方々に感謝申しあげ、報告を終わりります。

謝謝



男子キャプテン

竹内 遥丞 秀明八千代高校 3年

始めに日・中・韓ジュニア交流競技会、代表合宿に参加させていただきありがとうございました。自分にとってとても大きな経験をすることができました。この経験を今後のテニスに活かして行きたいと思います。

・代表合宿について

8月20日～22日までの代表合宿に参加し、神戸親和女子大学、近畿大学、実業団の株式会社ムーブの方々にお世話になり、とても充実した合宿を行うことができました。

まず、20日に代表のメンバーと初顔合わせをし、午後から2時間弱の軽めの練習をして自分の長姉を確認し、21日は株式会社ムーブと近畿大学の方々に練習と試合をしていただき、午前と午後合わせて6時間弱の練習をしました。練習試合はシングルス2試合、ダブルス3試合をしていただきました。シングルスは2試合とも自分らしい試合をすることができ、日・中・韓ジュニア交流競技会に向けて良い準備をすることができました。ダブルスは初めて組む仲間しかいなく、息の合ったプレーをすることができなかったですが、少しずつお互いの特徴を理解し合い手応えを感じました。22日は午前に軽めの練習をし代表合宿を終えました。

・日・中・韓ジュニア交流競技会について

日・中・韓ジュニア交流競技会の開会式で見せてもらった「大河ショーアクション」はとても楽しく、また人々の成長の過程を知ることができよかったです。フレンドシップ交流会では、日本・中国・韓国の様々な競技の人たちがとても楽しい出し物をしてくれたり、中国・韓国の試合をして人たちと仲良くなり写真を撮ったりウェアを交換したりなど、たくさんの思い出を作ることができました。

交流戦は韓国・鄭州・中国の順に試合をしました。

まず初戦の韓国戦はシングルスとダブルスの2試合をさせてもらいました。初戦ということもありとても緊張していて、シングルスでは自分らしいプレーをすることがうまくできず、またコートも日本でも経験したことのないハードコートでとてもやりにくく、そのせいもあり6-8と勝てる試合を勝ちにすることができずとても悔しい思いをしました。ダブルスは西田君と組ませてもらいました。初めてダブルスを組んだので息の合ったプレーがあまりできず、また



韓国選手のサーブなどのすごさに圧倒されてしまい、3-8と良い内容の試合をすることができませんでした。しかし西田君とのダブルスはとても楽しく、またいつか2人で何かに試合に出られる機会があればいいなと思いました。

2日目の鄭州との試合はシングルに出させてもらいました。この日から試合が3セットマッチに変わり、より長く試合をすることができました。試合の結果は6-1, 6-0と、韓国戦の時のような緊張もなくなり、ほどよい緊張を保つことができ、またコートにも慣れて、自分らしいプレーをすることができました。この勝ちは中国に来てから初めての勝利だったのでとてもうれしくまた、自分のテニスがアジアでも通用するのだということを感じることができ、自分のテニスにより自信を持つことができるようになりました。

3日目の中国との試合はシングルに出させてもらいました。この日は初めてよい天気の中で試合をすることができました。試合の結果は6-3, 6-3と、鄭州戦のような自分に余裕を持ってプレーすることができず、また相手もうまいテニスをしてくる選手だったので厳しい試合でしたが、この試合を勝ち試合にできたのは一緒に戦っていた仲間や、監督の新居先生の応援などの力があったからだと思います。またこの日が日・中・韓ジュニア交流競技会の中で一番良いテニスができ、最後の試合を良い形で終えることができて良かったです。

最終順位は3位と、悔しい順位になってしまいましたがみんな全力を尽くしきることができたと思うのでよかったです。

今回の遠征の経験を今後の自分のテニスに役立てたいと思います。

最後になりましたがアメアスポーツジャパン様、10日間お世話になった大森先生、新居先生、石原先生ありがとうございました。そして一緒に10日間過ごした仲間達に感謝しています。

本当にありがとうございました。





古田 陸人　名古屋高校　3年

今回「日・韓・中ジュニア交流競技会」に参加させていただき、ありがとうございました。中国遠征では、テニスの技術面だけではなく生活面も鍛えることができたのでとても良い経験ができました。日本代表は初めてで、日本を背負っていると思うと気が少し重くなったのですが、責任感を持ち、仲間と共に自覚を持ってできたので良かったと思います。

3日間の合宿では大阪学院大学のテニスコートを借り、株式会社ムーブ、近畿大学テニス部の2人に協力してもらって練習しました。キャプテンの竹内君を中心に練習をして、試合がベストな状態で臨めるように練習をして合宿を終えることができました。

中国に入ると、交通量がとても多く、信号が少なくここにテニスコートがあると思うくらい不安に思っていました。宿舎はテニスを含め11競技の日本選手団が同じでした。食事ではおいしいと思うような物はあまりなく生活リズムが狂わされました。でも最後の方は慣れ、おいしい物とあまり口に合わない物が見分けられるようになり楽しく食事することができました。

初日は韓国戦でした。前日の練習風景を見ていたら歯が立たないと思っていました。他の国の練習風景を見ていてもオーラがあり、隣りで練習していると恥ずかしくなるくらいでした。この日は雨により男子は室内での8ゲームマッチで、しかもシングルス1で出るということになりとても緊張していました。結果は6-8というあと一歩というところで負けてしまいました。相手は身長差はないが体つきがよくてサービスがよく、ブレークを1度もできずに終わってしまいました。ここではサービスの大切さを感じました。またリターンゲームではリターンミスばかりで相手が簡単にキープしていたので、もっと頭を使ったテニスを心がけたいと感じました。初日は1試合の出場となり、全体では1-4という結果で終わりました。



2日目は中国の地元との対戦でした。昨日と違い晴天で屋外での3セットマッチで行われました。シングルス1とダブルスの出場となりシングルスは6-3, 6-1, ダブルスは6-4, 6-4で全体が5-0の快勝でした。韓国戦の反省を生かし、シングルスではリターンから積極的に攻めることができました。自分のサービスでは回転系も加えよりよくプレーすることができたので良かったです。初勝利できてとてもうれしかったです。この相手は1ポイント1ポイント必死だったので、そういう所はまねしていきたいと思います。

最終日は中国戦でした。2日目で韓国が中国に快勝したので韓国の優勝がほぼ確定していました。日本対中国は2位決定戦みたいなもので、両チームともとても気合いが入っていました。特に中国は開催地なので応援も多く、ガツツ溢れるプレーでした。僕は2日目と同じでシングルス1とダブルスを任せられました。この日も晴天で3セットマッチでした。相手は細身で背が高く、サーブは高い所から繰り出され、コースを狙ってきたので少しやりにくかったです。安定したサーブというのではなくものないのでとてもうらやましかったです。1セット目はキープキープでタイブレークに入りました。タイブレークでは長いラリーばかりだったので緩急をつけることを意識しました。すると相手サーブでのポイントでも簡単にとれるようになり、2セット目ではそういうことをラリーの中に入れ工夫したら6-2で勝つことができました。ダブルスでは6-2, 1-6, スーパータイブレーク6-10で負けてしまい、全体2-3で負けてしまいました。ダブルスでは気合負けしてとてもくやしかったです。リターンが浮いてしまいポーチに出られるのが多かったのでもっとストレートを打ったりしていったほうがよかったです

また、開会式、フレンドシップ交流会、少林寺では中国と日本の文化の違いなど知ることができたし、外国人とのコミュニケーションをたくさんとることもできました。英語でしかコミュニケーションがとれないで通じなかったこともありましたが、とてもいい経験をすることができました。始めはとても緊張していましたが、仲間のおかげで楽しく遠征を終えることができました。仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、全国高体連はじめ、大森先生、新居先生、石原先生、この遠征に協力してくださった方々、ありがとうございました。





西田 昇吾 柳川高校 3年

まず始めに全国高体連テニス部様、アメアスポーツジャパン様、その他ご協力をいただいたスポンサー様、今回は日・中・韓ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。日本では経験できないようなことがたくさん学べました。

中国に入る前に日本代表の合宿が3日間大阪がありました。練習には近畿大学テニス部の方や実業団で活躍されているワールドの方に来ていただき、基本練習から振り回しまでたくさん練習することができました。特にマッチ練習では実戦に近い雰囲気でシングルスもダブルスもすることができとても内容が濃かったです。ホテルに戻ると、今までライバル関係だった自分たちが仲良くなれるか正直不安でしたが、みんな優しくて面白い人ばかりで合宿を終える頃には男女8人共仲良くなり1つになって優勝を目指すチームになりました。

そして関西空港から中国に向かいました。その日は中国に夕方の6時頃に着いたので練習はなく、晩御飯を食べることになりました。中国料理はあまり口に合わなくて少し大変でした。部屋は竹内君と2人部屋でした。テニスの話をしたり高校の話をしたりして楽しかったです。夜にミーティングがあっていくつかの注意点を言われました。時間を守ること、あいさつをしっかりすること、代表としての自覚、体調管理など基本的なことでした。

中国に入って2日目は雨が降っていたのでインドアで午前中1時間半、午後1時間半練習しました。コートはハードでしたが球足がすごく速く、ボールも日本では打ったことのない球でコントロールできず大変でした。

そして3日目に入って試合が始まりました。その日は雨が降っていたので1面進行で8ゲームマッチに変更になりました。私は2試合目に入りました。相手は左利きでサーブとボレーが良い選手でしたがストロークに安定感が欠けていると感じたので、自分からのミスを抑えて足を使っていくテニスを意識しました。応援のおかげもあって勝つことができました。ダブルスも竹内君と出場することができましたが、相手のサーブとボレーの技術は日本のレベルよりも高くて常に先行されてしまい、その結果敗れてしまいました。日本は韓国に1-4で敗れ



しまいとても悔しかったです。

次の日中国の地元のチームと当たり、天気も回復したので3セットマッチに戻りました。地元のチームはチャレンジャーの気持ちで向かってくると思っていたので試合のはじめからゲームを早く奪っていこうと思っていました。その結果相手の調子も上がらず6-0, 6-0で快勝できました。

最終日の相手は中国とでした。このチームで戦う最後の試合だったので気合いは入っていたのですが、うまくプレーに結びつかずなかなか自分らしさが出せなかつたです。相手はゲーム運びがうまく逆転できないまま3-6, 3-6で負けてしまいました。しかし日本チームがシングルス1, シングルス3をとって、ダブルスで勝った方が2位になる状況になり、私と古田君のダブルスにかかりました。相手は序盤少しプレーが固くてそこで私たちの積極的なプレーがうまくかみ合って6-2で1stセットをとりました。2ndセットでは相手のサーブやボレーに圧倒されてゲームがまともに奪えなくて1-6で落とし、ファイナルセットはスーパータイブレイクだったので2人で話し合って1つ1つしっかりとしたプレーを心がけました。しかしタイブレイクでは相手の強いサーブに対して私たちのサーブは確率は高かったのですが一発で相手にダメージを与えるようなサーブでなく、何度かブレイクされてしまい、最後は自分のミスで試合を落としてしまい本当に悔しくて、特にチームには申し訳ないと思って落ち込んでいました。しかしチームのみんなは優しく声をかけてくれてこのチームで戦えたことをとてもうれしく思いました。

そして韓国と中国の同世代のトップ選手と試合をして自分のテニスの課題に気づくことができました。サーブとフォア、特にボレーは他の選手と比べて劣っていると感じました。

遠征を通して日本代表の選手たちとは固い絆が生まれたと感じました。この遠征を終えてプロへ転向する人や大学へ進学する人、またインターハイで優勝を狙う人。戦う場所は違いますがこの遠征での経験を活かしてそれぞれ活躍して欲しいです。私もそれに負けないようにこれからもテニスの技術の向上と、自分の人間としての成長など努力していこうと思います。

最後に、ご指導いただいた団長・監督の皆様、大会関係者の皆様に感謝申し上げます。





池川 浩史 相生学院高校 2年

遠征に行く時、僕はいつも期待と希望で胸がいっぱいになります。しかし、今回は出発の何日も前から緊張していました。言葉や文化の違いに対する不安はもちろんですが普段行動したことのない上級生と、それも日本選手団として競技に参加するという夢のような数日間を考えるといろいろな感情が湧いてきました。

中国に到着して、盛大な歓迎を受けた時は、本当に嬉しかったです。

試合1日目、韓国の対戦相手は長身でサービスが速く、何とか自分の得意なパターンにもっていきかたったのですが緊張しすぎて自分のテニスができませんでした。打っている中で自分自身で修正する力がまだまだ不足していました。

試合2日目はシングルスとダブルスにでました。初めて古田さんとペアを組ませてもらったダブルスではかなり緊張しましたが古田さんの的確なアドバイスのおかげでいい展開の試合ができました。

3日目の中国戦は初日よりは内容はよかったですと思いますが、まだまだ技術もパワーもついていけませんでした。

今後の課題はサービスです。スピード、威力、コントロール、全てにおいてレベルアップしないと上には通用しないということが分かったのでこれから頑張っていきたいです。

試合以外については、中国での食事は最初はあまり食べることができなくてコンディショニングがとても難しかったです。当たり前のように水を飲めるという日本の環境に改めて感謝しました。鄭州市は歴史のある土地です。崇山少林寺の観光も日本では見ることのできない景色を楽しむことができました。現在も少林寺学校にて修行を行っているということがとても興味をもちました。

今回競技会に参加して本当に多くのことを学びました。世界のいろいろな国のプレーヤーと対戦



したり、観戦したりしてもっとテニス仲間を増やしたいと思いました。そのためにもっと自分自身を磨いていき、今まで以上に成長できるように頑張っていきたいと思います。また、テニスだけでなく英語をもっと学び、海外に行けたときに他の国の選手たちともっとコミュニケーションをとれるようにしていきたいと思いました。

最後になりましたが全国高体連テニス部様、アメリカスポーツジャパン様、引率して下さった大森先生、新居先生、石原先生、本当にありがとうございました。



女子キャプテン

菅村恵里香 仁愛女子高校 3年

今回、日中韓交流試合の日本代表に選んでくださりありがとうございました。私は代表に選ばれた時は本当に嬉しくて楽しみでした。しかしそれと同時に不安もありました。私は、他の選手に比べ個人の戦績がなく、このメンバーでやっていけるのか、みんなと上手くやっていけるのかと思っていました。また、私は、外国人と試合することはほとんどないため、どのようなプレーをするのか、と考えていました。

1日目は韓国との試合でした。この日は天候が悪く、8ゲームで行われました。私は、相手がどのようなテニスをしてくるのか全く分からぬ状態だったので、とりあえず自分のテニスをしっかりとしました。どんな相手でも、日本代表としての自覚を持たなければいけないと思っていた。相手の球は速かったけれど、ミスを先にしてくれたので助かりました。

2日目は、地元との試合でした。例年の地元チームに比べレベルが高いと聞いたので、気を引きしめていかないと、と思っていました。インドア2面を使って行されました。インドアは外よりもボールが速く少し嫌だと思っていましたが、そのボールの速さを自分のものにできました。速く返しすぎて次に間に合わなかったこともありましたが、何球かラリーをしておけば、ミスをしてくれたので助かりました。この試合では、ダブルスにも出させていただきました。相手はアタックをたくさんしてきて、最初はそれに対応できませんでした。しかし、ファーストセットで相手のプレーが分かってきたのでセカンドセットは自分たちのペースでいき、ファイナルセットはスーパータイブレイクでした。他の学校の人とダブルスを組むなど今までになかったのでとても勉強になりました。仁愛のダブルスはロブが多いのでペースがゆっくりですが今回組ませてもらった美濃越さんは球が速く、仁愛とはまったく違うダブルスでした。だからあまりポーチに出られませんでした。レベルが高くなってくるとボールが速いのでゆっくりのテンポで続けてもいけないと思いました。速いボールでもポーチに出たり、ラリーでも、速いボールの中でも緩いボールを混ぜながら相手を崩していくようになりました。

最終日は中国との試合でした。中国は強いと聞いていました。他のチームに比べて球が速くて、試合前は弱気になりましたが、最後の試合なので、思いきり自分のプレーをしようと思って試合に挑みました。ファーストセットは、なんとか取りましたが、セカンドセットは集中が切れてしまいあっという間に取られました。ファイナルセットは結局7-5で取りましたが、勝てたのは、フェ



ンスの後ろで声を掛けってくれたり、拍手をしてくれた日本代表の仲間達がいてくれたからだと思います。この日の応援は本当に盛り上がっていて、団体戦をしていると実感しました。このように、他校の人が集まって団体戦をするのは初めてで、こんなに盛り上がるとは思いませんでした。インターハイや選抜の時のように、初めてのチームでここまで盛り上がれたことにも嬉しく思いました。今回、みんなで全ての試合を勝てたことが本当に良かったと思います。

今回の日中韓ではたくさんの人にお世話になりました。中国へ行く前の合宿では、大阪学院大学のコートを使わせてもらい、親和女子大学の方と一緒に練習をさせてもらいました。試合もさせてもらったりして、本当に充実した合宿をすることができました。ありがとうございました。

高体連の先生方、特に今回最後まで私たちのそばにいてくださった、大森先生・新居先生・石原先生には本当にお世話になりました。10日間の遠征で長かったけれど、先生方のおかげでいい遠征ができました。試合の時も先生方の応援で落ちつきました。ありがとうございました。

今回、日本代表として一緒に行ったメンバーは、雰囲気が本当に良くて、逆に驚きました。強い人ばかりだから、みんな性格がきついのかと思いきや、話しやすくて、良い人ばかりが集まっていました。仁愛以外でいい仲間が出来て良かったです。ありがとうございました。

そして今回私を日中韓の日本代表として行かせてくれた仁愛テニス部のみんなには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。たまたま私が1番手で、みんなのおかげで決勝まで勝ち上がり、日中韓交流試合の日本代表として中国に行かせてもらうことができました。

たくさん的人に支えられていい経験をすることができました。今回の遠征で学んだことを、後輩に伝え、自分のこれからテニスライフ、ひいては人生そのものに生かしていきたいです。

本当にありがとうございました。





山本みどり 園田学園高校 3年

私はまず始めに、この日・韓・中ジュニア交流競技会の日本代表選手に選んで頂いて本当に感謝しています。有難うございます。

私はずっと代表選手になりたかったので派遣させて頂けると聞いた時はとても嬉しく思い、この機会に色々な競技をしている人や、同じテニスをしている人などの沢山の人から良いところを吸収して帰ろうと思っていました。

色々な思いを胸に込めて出発し、これから中国に一緒に行く先生やチームメイトに会った時はいよいよこれから始まるんだな！とワクワクした気持ちと、もう一つは日本代表という自覚を持って行動しなければならないという緊張感がありました。

まず初日、2日目と大阪で合宿がありました。その時お手伝いして頂いた神戸親和女子大学の方々やコートを貸してくださった大阪学院大学の方々には本当にお世話になりました。

8月22日の昼頃に全競技の選手が集まるホテルに向かい、パスポートのことなど説明を受けた次の日の朝に中国に出発しました。

中国に着いた次の日からはさっそく練習をしました。コートのテンポが早かったですが、慣れるのもそんなに時間はかかりませんでした。私達、日本選手と同様に中国や韓国の選手も一生懸命練習をしていたので、明日から気合を入れていかないと優勝できないな。と思っていました。

その日の夜は河南省テレビ局で開会式がありました。国旗を貰ったり、少林寺拳法やショーを見たりして、とにかく盛大な開会式でした。この時色々な人が自分の国旗を振っているのを見て私は、みんな自分の国に誇りを持っているんだな、と感じました。

次の日の25日から27日までは競技会がありました。25日の韓国戦ではシングルス・ダブルスに出場しどちらも勝つことができ、チームとしては4-1で勝つことができました。26日の地元戦ではシングルスのみに出場し、この日は5-0で日本チームが勝つことができました。27日の中国戦では優勝争いの直接対決でした。オーダーは韓国戦の通りに出ました。私はシングルスもダブルスも勝利してチームに貢献することは出来ませんでしたが、みんなが勝ってくれたおかげで優勝することができ、とても嬉しかったです。自分が中国戦で負けてやはり悔しい部分はありました。学んだことや得たことがあったので次は同じ失敗をしな



いようにしようと心に決めました。

3日間にわたる競技会が終わり、夜は鄭州市の体育館で3カ国の全ての競技選手が集まる「フレンドシップ交流会」に参加してきました。

この交流会は私が思っていた以上に盛大で3ヶ国のそれぞれの競技の人がダンスを踊ったり、歌を歌ったり、ゲームに参加していました。私達日本のテニスチームはトップバッターで風船割りのゲームに参加しましたが、みんなでダンスも踊れたらなあ、と思っていました。名前の通り色々な人と交流し、沢山写真を撮ったりしてとても楽しかったです。

28日の午前は各競技でフリーだったのでショッピングに連れて行ってもらいましたが、他競技では午前は練習をすると言っていた人達もいたので少し刺激になりました。その日の朝は私も早起きをしてランニングをするようにしました。

午後からは全競技で片道3時間かかる、少林寺を見に行ってきました。少林寺はとても古くて大きくて日本のお寺とはまた違った面があり行けて良かったです。やはり中国と日本では交通面でも食料面でも思っていた以上に違いびっくりしました。道路に信号はあまりなく本当に気をつけてないとして事故に繋がってしまうような感じでした。食料面では行く前から周りの人に口になかなか合わないと聞いていましたし、実際にはその通りでしたが、これから先のことを考えて、なるべく色々な物を口に入れチャレンジしていました。国を超えたらやっぽり自分の普段とかけ離れていることも多いですが、そのような経験を出来たことは本当に自分の為になったと思います。

今回、自分の中で大きかったことは色々な競技の人たちと一緒に過ごせたことだと思いました。普段スポーツの中でもテニスの世界でしか見えない世界が、スポーツの世界ではもっと幅が広がっていくことを知りました。みんな沢山の人に支えられて今があると言うことは全員に共通していることだと思うので私ももっと日々努力して、日々感謝し、「テニスをしていてよかったです。」と思えるように頑張っていきたいです。テニス競技以外の人とは、強くなつてまた会えるように努力していきたいと思っています。

そして何よりもこの遠征を素晴らしいものにしてくれた先生方、チームメイト、最後に通訳の方々、本当にありがとうございました。

全ての方々に感謝申し上げます。





美濃越 舞 秀明八千代高校 3年

今回の日中韓ジュニア交流戦では、日本の女子チームは韓国、中国、地元チームの中で優勝することができました。

まず自分の試合をふりかえってみると、全体的に調子が上がらず不調の中での試合ばかりでした。初戦の韓国との試合のときは、自分はシングルスだけしました。相手は、ねばり強く、私の苦手なサウスポーでした。サウスポーが苦手で嫌だなど、最初から思ってしまったのがとても悪かったと思います。それと、自分の得意なフォアハンドが不調のときに、試合全体で、それを引きずってしまい、8ゲームという短いゲーム数の中、立て直せず競ったものの負けてしまいました。初戦というのもあって、個人戦ではなく団体戦なんだという気持ちがあまりもてず、ねばることもなく負けてしまったので、そこは反省するところだと思いました。チーム内はシングルス3-1、ダブルス1-0、計4-1で勝利したので、みんなに助けられて勝つことができました。

2戦目は地元チームとの対戦でした。中国チームは、フラット系でパワフルに打ちこんでくる選手がとても多かったです。この対戦で私はシングルスとダブルスに出ました。シングルスでは、相手が勢いのあるボールで打ちこんできたのですが、自分はその方がプレーしやすく、前日の韓国戦よりは、自分のペースにうまく持って行くことができました。この試合の時は相手がハードヒッターで打ちこまれることもあったので、そこでディフェンスがうまくできませんでした。それは今後の課題でもあると思います。ダブルスは管村さんと組ませてもらいました。相手選手は少しでもスキがあれば、スピードボールでストレートにすぐアタックして、一か八かで押し切ろうとするタイプでした。でだいは、そのプレーにとまどって、自分たちのるべきことがしっかりとできていませんでした。ですが試合中の石原先生のアドバイス、パートナーとのコミュニケーションで立て直して1stセットは落としてしまいましたが2ndセット3rdセットは取り返すことができました。シングルスは6-4、6-1で勝ちました。地元との試合はシングルス4-0、ダブルス1-0、計5-0で勝つことができました。

3戦目の中国代表との試合では、シングルスでました。中国代表は、日本チームと同じで韓国に4-1、地元チームに5-0という勝ち上がりでした。相手が強いこともみんな分かっていたので、いつもよりもさらに全員気合がは入って



いたみたいです。シングルスが1-1の状態で私にまわってきました。この日も出だしから自分のショットが打てませんでした。いつもと何が違うのか、自分でも全くわからず、色々ためしてもミスが増えるだけで、一向に良くなる気配がありませんでした。ファーストセットは落としてしまいました。セカンドセットに入って、少しだけ自分のラケットがしっかりふれる場所に打点をとることができるようになり、6-1で取り返しました。ファイナルセット、相手というより、もはや自分との戦いの中、自分が落ちこんで元気がでなかつた時に、石原先生がつねに元気づけてくれて前向きに試合することができました。先にシングルが終わっていた2人も一生懸命声を出して応援してくれてとても力になりました。中国戦はシングルス3-1、ダブルス0-1、計3-2で勝利しました。今回の優勝はメンバーのみんな、大森先生を始めとする遠征に来て下さってる先生方のサポートがなければありえませんでした。本当に感謝しています。

交流戦でしたし、中国、韓国の選手とも仲良くなれて良かったです。それと、中国は初めて来たのですが、食事のことなど一度経験できたことは自分にとって大きいと思います。

最後に、高体連テニス部の方々、アメアスポーツジャパンを始めとする多くのスポンサー様、今回の遠征に協力して下さった全ての方々、本当にありがとうございました。

今回の経験を活かして、より頑張っていきたいと思います。





江口 実沙 富士見丘高校 3年

まず初めに、高体連テニス部の皆様、アメアスポーツジャパン様、その他今回の遠征にご協力していただいたスポンサーの皆様、ありがとうございました。

私は今回、全国選抜高校テニス大会の個人の部でベスト4に入り、日、中、韓ジュニア交流競技会に参加することができました。あまり関わりのない選手が多く、不安な気持ちを抱えたまま、大阪での合宿に参加しました。でも、1日目ですぐに皆と打ち解けられて、すごく楽しく充実した合宿になりました。練習を終えて、日本団全員が泊まるホテルに移動した時、人の多さにとてもびっくりしました。その時、改めてこの大会の大きさを感じました。

中国に着いてからは、バスでホテルまで移動しました。そのバスで他の車とぶつかってしまい、車の人とすごくもめていて、とても不安に思いました。中国での初めての練習は、雨の為、室内コートでの練習になりました。とても速いコートで最初はなかなかうまくできませんでした。でも、午後も練習してると少しずつタイミングがあつてきて調子も少しずつよくなってきてよかったです。

試合初日は男女とも韓国との対戦でした。雨が降っていたので、室内の1面展開で男子から始まり、午前中はずっと応援していました。午後に雨が止み、いきなり外で試合になりました。スタートが13時だったので4面展開で入りました。私は8-2で勝つことができました。最近ずっと満足のいく試合ができていなかつたので不安もあったけど思ったより良い試合が出来ました。ダブルスにも、山本みどりさんと組んで出場し、8-4で勝てました。初めて組んだのに、良いコンビネーションで試合ができたので良かったです。そしてチームとしても4-1で勝つことができました。

次の日は地元、鄭州との試合でした。この日はシングルスだけの出場でした。曇りで、外のコートが使えたので、外6面、中2面の8面を使い、全試合2面展開で行いました。私は6-4、6-2で勝ち、他の試合も全部勝ち、5-0で勝つことができました。その後、軽く練習をしましたが、その時に、「相手も自分と同じくらいのレベルだから刺激があつて、良い練習ができるな」と感じました。

試合最終日は中国代表選手との試合でした。中国2勝、日本も2勝だったので今日の試合で勝った方が優勝でした。中国の選手は皆パワーがすごくあってとても球が速かったので、みんなで「絶対勝とうね！」と言い合ってコートに入りました。私の試合は6-3、6-2で勝ちました。昨日や一昨日



よりもうまくいかず、ミスが多くて中国人のパワーにすごく押されました。でも団体戦なので自分の好きなようにやることよりも勝つということが大事だと思ってプレーしたので勝つことができました。1-1でシングルスの3と4が入り、2つともファイナルに入ったので山本さんと2人で声を出して応援しました。2人共接戦を勝ち、優勝できたので良かったです。その後に山本さんとダブルスに出ました。ボールがとても速く、2人でシングルスのようなプレイをされて、何もできないままボコボコにされて終わってしまいました。でも優勝できてとても嬉しかったです。

その後、フレンドシップ交流会というのがありました。全競技の人が集まってゲームや出し物をしました。言葉が分からなくてもみんな仲良くしていてとても楽しかったです。ホテルに帰ったあとは、韓国チームの子とウェアの交換をしました。すごくいい記念になりました。

最終日の観光の日は、午前中にみんなで買い物にでかけました。そして午後には全競技で少林寺を見に行きました。最後の日にとても楽しくいい思い出ができました。

最後に高体連テニス部様、アメアスポーツジャパンをはじめ、その他ご協力くださったスポンサーの皆様、引率してくださった、大森先生、新居先生、石原先生、皆様のおかげで、とても楽しくとても勉強になったこの遠征に参加することができました。

これから選手生活の中でこの経験を生かしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。





韓国チーム選手と



中国チーム選手と



鄭州チーム選手と



開会式



フレンドシップ交流会



少林寺にて